

文化庁の地域文化芸術振興プラン推進事業として、県内6ヶ所で現代アートやパフォーマンスなどを展観する『あいちアートの森＝アートが開くあいちの未来＝』が開かれます。そのうち二つのプロジェクトが、いよいよ12月からスタートします。

5日から始まる「東栄町プロジェクト」は、廃校となった旧新城被東高校本郷校舎を使います。11月27日に、山本富章さんの作品設営へ行ってきました。

10:30、倉庫に保管してある作品の積み込みをスタート。巨大な作品パーツに圧倒されながら、（トラックに乗るのか？）と不安に襲われました。

案の定、4tトラック2台がいっぱいになってしまい、急遽4tトラックをもう一台呼ぶことに。二時間かかって積み込みを終え、さあ、東栄町へ出発。



愛知県の東端にある北設楽郡東栄町へ約三時間かけて到着、現在は廃校となっている高校の体育館へ作品を積み下ろします。



16:00、いよいよ展示開始です。

まずは、梱包材を解いていきますが20年ぶりに作品を出すため、薄紙が作品に貼り付いてなかなか取れません。貼り付いてしまった紙は丁寧に剥がして、柔らかい布で綺麗に拭き取ります。

そうして、試行錯誤しながら作品を組み立てていきます。

重いパーツを5mの高さまで担がなければいけない状況も、作品を足場にして(!)クリアしていく作業員さん。



山本富章先生は、この巨大な作品を誰の手も借りずに、たった一人で制作したそうです。

展示しながら、「20年ぶりで懐かしいとかじゃないね。よく一人で作ったと驚くよ、本当。40歳だったからできたことだと思うね。」と呟く先生。



そう、この作品は、20年前に幕張メッセで展示されて以来、二回目のお披露目となるととても貴重な作品なんです。体育館の広さを生かして展示した対作品は、床に引かれているラインや、天上から降りているバスケットゴールなどと、絶妙なハーモニーを奏でています。

先生曰く「20年たっても迫力あるでしょ。」

作品の門で写真撮影もできます。この門で撮影すると元気と幸せが訪れるかもしれませんよ。



23 : 30、無事に作業終了。立派な作品がお目見えです。全体像はもったいないので、ここではお見せできません。

是非、東栄町の旧新城東高校本郷校舎、体育館へ足をお運びください。一見の価値あります！！

(K0)